

福島県浪江町出身 横山紗希さん(22)



ひと紀行

志の根底には、故郷を奪われた体験がある。2011年

「今度は私が周囲のために」

2年生の時、震災復興をテーマにしていた馬渡剛准教授のゼミを選び、研究対象を「故郷の地域再生」に決めた。同町役場職員ら被災・避難者約10人の聞き取り調査などを行い、研究結果は今年3月、同級生らと発行した書籍「震災とコミュニティ」(志学社)に収録した。今年3月の卒業を前に、水戸市役所と福島県内の民間企業から内定を得て、福島に戻るか悩んだ。思い浮かんだのは震災当時、避難所で懸命に支援してくれた役場職員の姿だった。「今度は私が周囲の人のために動きたい」と公務

員の道を選んだ。自宅は今も居住制限区域に指定されており、いつ戻ることができのかわからない。書籍には故郷を奪われた浪江町民としての思いもつづいた。「原発事故は決して過去のものではなく、現在進行形の問題であることも忘れないでほしい」。震災経験者として、4月から新しいスタートを切る。【蒔田備憲】

3月11日、福島県浪江町加倉地区の自宅で友人と過ごしていた。大きな揺れに襲われ、翌日には東京電力福島第一原発事故を知らせる防災無線が流れた。家族とともに避難し、同県内を転々とした。決まっていた茨城大への入学も1カ月遅れになった。「震災と原発事故で人とのつながりを失い、コミュニティの大切さを痛感した」。



よこやま・さき 1992年8月生まれ。福島県立双葉高校卒。両親、妹の4人家族で、母、妹は福島市内で暮らし、父は東京で単身赴任。趣味は読書と映画鑑賞で、好きな作家は伊坂幸太郎。